

# 「不登校体験の話を聞く会」開催しました

2019年度の全国不登校児童生徒数は18万人を超えたと、2019年10月22日に文科省が発表しました。2018年度と比べると2万人増加しており、年々学校に行きにくさを感じている子どもたちが増えていることが明らかになっています。実際に、フリースクールへの問い合わせや見学者は増えており、県内でも悩みを抱えるご家族が増えているように感じます。

また、そうした中、不登校を経験した子どもたちの卒業後の進路についても、不安を感じる保護者の声もありました。そこで、3年目になる講演会では「フリースクールを卒業したその後…」をテーマに、3名のフリースクール卒業生に不登校経験や卒業後の葛藤や悩みも含めて話してもらいました。

## 立ち止まって考えて、自分が納得して進む

「学校に行かない」ことを決めた理由はそれぞれで、人間関係や学校に対する違和感、がんばり過ぎてエネルギーを使い果たしてしまう…等あります。3人は、中学生の時に縁あってフリースクールに繋がり、中学卒業時にはそれぞれに高校進学を決めました。

彼らはそれぞれに「どうして自分は高校へ行くのだろう」と、立ち止まって考えたと言います。立ち止まって、しっかり考えて、自分なりに納得して決めて進む、それが、とても大事なことであると感じました。

その後、彼らは、大学や専門学校に進んだり、アルバイトをしたり会社に入ったり、辞めたり、結婚した



講演会の様子

り…3人3様の人生の選択をしてきました。時には止まり、悩み、自分に向き合ったり、誰かの力を借りたりしながら、自分で決めて歩んできました。それはどんな子どもたちにもあることです。そうやって自己決定しながら生きていく力を彼らはちゃんと持っています。

## 3人からのメッセージ… みなさんと共有したいこと

3人の卒業生の話を聴き、印象に残った言葉を紹介します。

「今の自分があるのは、エネルギーを貯める時間があったから。そういう時間を見守ってあげて欲しい。」

「コミュニケーションが取れる、繋がりが持てる場があると良いのだと思う。」

彼らの言葉から、安心して自分らしく居られる場所があることが、自分を取り戻して動き出せるエネルギーを回復できることになるのだと感じました。

「不登校だからといって、道がないわけではない。」

その道を自分で悩みながらも選択していくことができる力を、子どもたちに取り戻してあげることが大事であることを、あらためて感じた会でした。

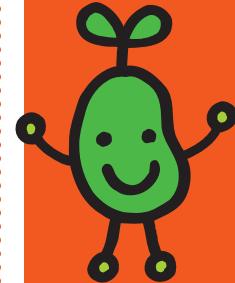


フリースクールの模型



フリースクールの1年間

# ビーンズ 通信 vol.102



●発行日／2021年(令和3年)1月10日

●発行元

特定非営利活動法人

## ビーンズふくしま

〒960-8066 福島県福島市矢切町22-5 2F

TEL&FAX 024-563-6255

URL <http://www.beans-fukushima.or.jp/>

E-mail [info@beans-fukushima.or.jp](mailto:info@beans-fukushima.or.jp)

NPO法人ビーンズふくしまは、不登校の子どもやひきこもりの青年などに安心できる居場所を提供し、1人1人に寄り添って、ゆるやかな社会参加を促し、その自立を支援する、若者支援の理念に基づいて事業を展開しています。

新年あけましておめでとうございます。昨年は、新型コロナウイルス感染拡大の中での活動となりましたが、ご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございました。本年も、ビーンズふくしま職員一同、コロナ禍においても、子ども若者支援に尽力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

令和3年  
理事長  
若月ちよ



# 連携の在り方。

ビーンズふくしまは、「生きにくさを抱える子ども若者が自ら望む姿でつながることができる社会をつくる」ことを目指し、「子ども若者の教育・労働・福祉との接続機会の喪失によって「社会からの孤立問題」を解決する」ために居場所支援、相談支援、学習支援など様々な事業を通じて活動しています。

困りどとを抱えている方の背景は、多様化・複雑化しており、法人内でも一つの事業だけでは課題解決が難しい場合があります。今回は、ビーンズふくしま相談部門のメンバーがゆるつと話し合の中で見えてきた、法人内での連携の在り方についてお伝えできればと思います。

●ふじい  
福島県北・相双地域  
若者サポートステーション(サポステ)  
働くことに悩みを持つ方へのサポート

●わかつき  
福島県ひきこもり支援センター(ひきセン)  
ひきこもり状態にある  
本人・家族へのサポート

●ななうみ  
ビーンズごころの相談室(相談室)  
様々な悩みを持つ方、  
いろいろにフォーカスしたサポート



**ふじい**●ビーンズふくしまの相談事業を公式化すると、サポステが社会に近いところの支援で、ひきセンは家に近いイメージ。相談室は全部に関わる、社会に出てからもずっと続けられる支援って感じだよね。

**ななうみ**●社会と家って考えたら、確かにひきセンの方が家に近いね。

**わかつき**●サポステは相談の入り口機能。

**ななうみ**●丸山康彦先生が言う「願い」と「思い」にはめると、サポステが入り口になりやすいのは、世の中から求められがちな「働かなきゃいけない」っていう「願い」を考えてくれるところって思うんだと思う。相談室は「思い」への支援なんだけど、ここに来て何になるんだろうって思うと、すごく入りづらい入り口だよね。

**わかつき**●親は「働いてほしい」という願い、子も「働かなきゃいけない」という願いはあるけれど、本当の気持ち=「思い」(不安や怖さ)もあるから、その両方を支援していく必要がある。

**ふじい**●ひきセンや相談室は「問題解決」をしてくれるところで、サポステは「なりたい」を叶えてくれるところって感じかな。

**わかつき**●「なりたい」を叶えてくれると思って来たら、実はいっぱい問題を抱えている場合もあって、就職活動よりも前に解決しないといけないことがあるってなったら?

**ふじい**●「出来ること」と「出来ないこと」ってどうしてもあって、出来ないことは出来る人にやってもらう方が利用者のためになる。相談室には心理面を補ってもらって一緒にサ

ポートするから就労に向かえることもあるし、ひきセンに相談するときは、本人の気持ちがまだ就労に向かえていない時かな~。

**ななうみ**●ひきセンはケースワークをするところだから、どこにつないだらベストかな~って考えなおす感じだよね。

**ふじい**●家族からの相談があった場合、初回面談の時点で、相手の話を聴きながら、ひきセンやユースプレイスの情報提供をしているな~。ビーンズにはこういうメニューがありますよって提示すると、みなさん選択していくんだよね。

**わかつき**●「働く」って分かりやすい入り口だから、家族もサポステにはつながりやすいよね。

**ななうみ**●サポステはつながったら、その先に「就労の準備をする」ってことがあるから、そこが相談室やひきセンとの違いだよね。サポステには「入り口機能」と「訓練機能」があって、利用することがいい状態なのか早い段階で判断して、迷うことがあつたらひきセンに相談して感じるかな。

**わかつき**●利用者にとっても安心して話せるところを選んでいるんだと思うけど、法人内にメニューがあるから、きっとなんとなく使いやすい部分があるのかな。スタッフも共有しやすいから、「ここが困ったね~」とか「これが必要だね~」って話し合いながら伴走できる体制があるよね。

**ふじい**●法人内の連携がしやすいのって、傍にいるってことはもちろんだけど、ビジョン・ミッションがあるから、目指すところが分かりやす

くて、どの視点で動いているか共通事項になっているからだよね。軸があるからこそ、何がどうして課題になっているのか、困ってことで連携できる。

**わかつき**●雑談レベルで話す中で、情報提供してもらったり、一緒に考えることができてるね。それが助かる。仲間が近くにいるから、日常的に困りごとを出せることは強みかな。

**ななうみ**●外部との連携になると、その窓口で出来るか出来ないかってなってしまうこともあるけど、ビーンズの中ならこれも使えそうだよね~って、どこまでならできるかな、を考えられるし、軸があるからズレることがないよね。

**わかつき**●「ビーンズ」っていう土俵があって、それぞの事業が成り立っている感じだね。

**ななうみ**●ビジョン・ミッションがあって、共通言語がたくさんあるから話しやすいのかも。これからは、地域にも共通言語をいっぱい増やしていくといいよね。これからは「生き方相談」で「生き方を支援」しないとな~って話してた。今何で困っているか、だけじゃなくて、これまで何に困ってて、これから何に困りそうで、何をどう組み立てると、その人が自分らしく生きていけるのかって視点で支援を考える必要がありそう。

**ふじい**●「本人が主人公」ってところがベースとしてあるからね。ビジョン・ミッションが共有できているからこそ、ぶれることなく連携していく。

**わかつき**●本人を主体に考えながら、これからも伴走していきたいね。

# 「乳幼児のこころとからだを育む運動遊び in 福島」を開催しました!

ふくしま子ども支援センターでは、東日本大震災後、「地域の子育て力向上」を目指し、福島県内の子育て支援者のための研修を実施しています。2020年11月6日(金)にはNCVふくしまアリーナにて、支援者研修「乳幼児のこころとからだを育む運動遊び in 福島」を開催いたしました。

この日は、福島新体操クラブ代表の水戸眞由子先生を講師に迎え、保育士、幼稚園教諭、子育て支援センター職員等を対象に、ソーシャルディスタンスを十分に保ちながら運動遊びの研修を実施しました。

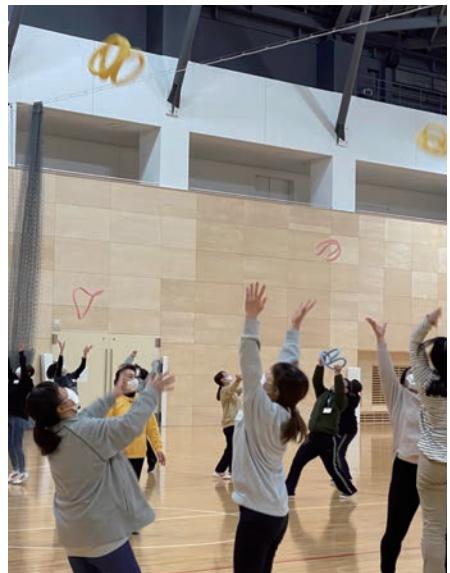
研修は、体幹を意識したストレッチから始まりました。中には、「いてて…」の声も。

2人1組になりフラフープを投げたり、くぐったり、引っ張ったりしながら、遊びの展開を学びました。また、子ども達の意欲をひきだすような声掛けのコツや、発達段階に応じた遊び方をレクチャーしていただきました。

福島新体操クラブの生徒の皆さんたちにも加わっていただき、和気あいあいと楽しい雰囲気の研修となりました。休憩時には新体操の素敵な演技を披露してくださいました。

アンケートには、「もう一度遊びの内容を変えてさらに勉強したい」「自分のからだのメンテナンスも大事だということを学んだ」という感想がありました。

ふくしま子ども支援センターでは、引き続き福島県内の支援者に必要と思われる研修を開催していきます。



## ♪ ホームページ、リニューアルしました!

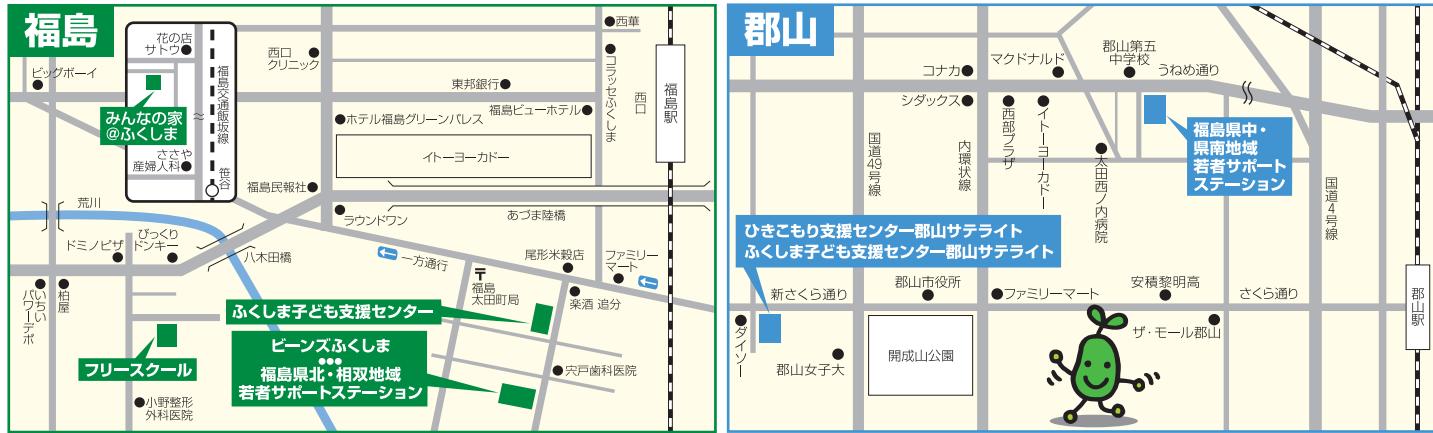
いつもビーンズふくしまのホームページをご覧いただきありがとうございます。この度、ホームページをより使いやすく快適にご利用いただけるように、福島県ひきこもり支援センターと福島県北・相双地域若者サポートステーションのホームページをリニューアルしました。パソコンの他にスマートフォンからも、快適にご利用いただけるホームページに作成しております。

福島県ひきこもり支援センターのホームページでは、ご本人やご家族に向けたコラムを定期的に更新しております。福島県北・相双地域若者サポートステーションのホームページでは、毎月の講座案内や利用案内などわかりやすく記載しておりますので、是非ご覧ください。今後とも、皆さまのお役に立つ情報や内容の充実に努めてまいりますので、よろしくお願ひいたします。

福島県北・相双地域  
若者サポートステーション



福島県ひきこもり  
支援センター



●ビーンズふくしまのホームページ こちらへアクセス → <http://www.beans-fukushima.or.jp/>